

そのまま？ たとえ？ 見分けプリント⑤

小学生・文章から たとえの 文を めき出す

なまえ _____

ひづけ _____

- ・下の 文章の 中に、同じ 言い方が 2回 出て きます。
- ・慣用句の 意味(たとえ)で つかって いる ほうの 文を さがそう。
- ・その 文を、そのまま 線の 上に 書き写そう(空きや 漢字の ちがいは 気にしない)。

れい ゆうとは ストープで 手を やいた。弟の いたずらにも 手を やいた。

→ たとえの 文 = 「弟の いたずらにも 手を やいた。」

- (1) ゆうきの 日記です。 百円の ぼきんでは 焼^やけ石に 水だった。 焼^やけ石に 水を かけると、湯気が 出た。

たとえの 文 _____

- (2) さくらの 日記です。 ころんで ひざを 強く 打った。 「なるほど」と 思わず ひざを 打った。

たとえの 文 _____

- (3) れんの 日記です。 せなかに 手を 回して かいた。 うらで 手を 回して 話を まとめた。

たとえの 文 _____

- (4) みおの 日記です。 お客の 足元を 見て 高く 売った。 足元を 見て ゆっくり 歩いた。

たとえの 文 _____

- (5) そらの 日記です。 ぶつけて 目の上の たんこぶを 冷やした。 あの 兄は ぼくの 目の上の たんこぶだった。

たとえの 文 _____

- (6) あおいの 日記です。 人の けんかに 首を つっこんだ。 ねこが 箱に 首を つっこんだ。

たとえの 文 _____

- (7) はるの 日記です。 この 千円は ぼくの 虎^{とら}の子だった。 動物園で 虎^{とら}の子が 生まれた。

たとえの 文 _____

- (8) かいの 日記です。 手品師が 手のひらを 返して 見せた。 勝つと、みんな 手のひらを 返した。

たとえの 文 _____



そのまま？ たとえ？ 見分けプリント⑤【こたえ】

小学生・文章から たとえの 文を めき出す

なまえ

ひづけ

○の つけ方

こたえは 文を そのまま 書き写して いれば ○。ほかの 文を 書いて いたら ×。

ことばの 間の あきや、漢字と ひらがなの ちがいは、気に しなくて よい。

□ たとえの 文を えらべた □ 文を おちなく 書き写せた

まちがえた ときは、2つの 文の 手がかり（場しよ・道具・相手）を ならべて たしかめよう。

- (1) ゆうきの 日記です。 百円の ぼきんでは 焼^やけ石に 水だった。 焼^やけ石に 水を かけると、湯気が 出た。

たとえの 文

百円の ぼきんでは 焼^やけ石に 水だった。

「焼^やけ石に水」=少しの 助けでは 効果が ない

- (2) さくらの 日記です。 ころんで ひざを 強く 打った。 「なるほど」と 思わず ひざを 打った。

たとえの 文

「なるほど」と 思わず ひざを 打った。

ひざ
「膝^{ひざ}を打つ」=なるほどと 感心する

- (3) れんの 日記です。 せなかに 手を 回して かいた。 うらで 手を 回して 話を まとめた。

たとえの 文

うらで 手を 回して 話を まとめた。

「手を回す」=前もって 準備する

- (4) みおの 日記です。 お客の 足元を 見て 高く 売った。 足元を 見て ゆっくり 歩いた。

たとえの 文

お客の 足元を 見て 高く 売った。

「足元を見る」=相手の 弱みに つけこむ

- (5) そらの 日記です。 ぶつけて 目の上の たんこぶを 冷やした。 あの 兄は ぼくの 目の上の たんこぶだった。

たとえの 文

あの 兄は ぼくの 目の上の たんこぶだった。

「目の上のたんこぶ」=じゃまで うっとうしい 人

- (6) あおいの 日記です。 人の けんかに 首を つっこんだ。 ねこが 箱に 首を つっこんだ。

たとえの 文

人の けんかに 首を つっこんだ。

「首をつっこむ」=関係の ない ことに かかわる

- (7) はるの 日記です。 この 千円は ぼくの 虎^{とら}の子だった。 動物園で 虎^{とら}の子が 生まれた。

たとえの 文

この 千円は ぼくの 虎^{とら}の子だった。

とら
「虎の子」=大切に して 手ばなさない もの

- (8) かいの 日記です。 手品師が 手のひらを 返して 見せた。 勝つと、みんな 手のひらを 返した。

たとえの 文

勝つと、みんな 手のひらを 返した。

「手のひらを返す」=急に 態度が 変わる